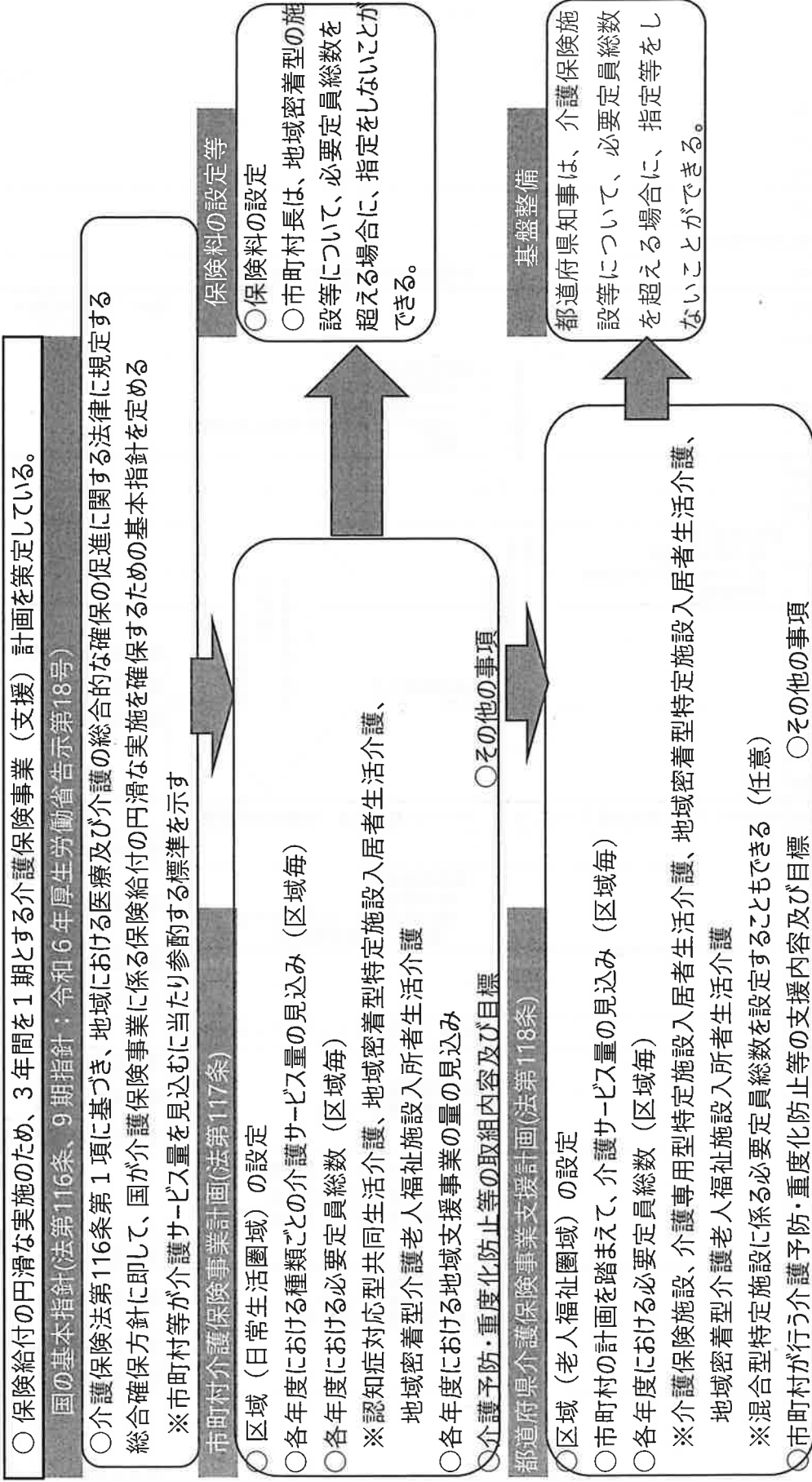


高齢者福祉計画・第10期介護保険事業計画について

資料 2

介護保険事業(支援)計画について



資料：全国介護保険・高齢者保健福祉担当課長会議（令和8年3月）

第 10 期介護保険事業計画策定スケジュール

	県	市	受託者
4 月上旬			
中旬			
下旬			
5 月上旬			
中旬	圏域連絡会議		
下旬		計画策定支援業務契約締結	
6 月上旬			契約 市との打合せ
中旬			
下旬		運営協議会① 計画策定スケジュール ニーズ調査概要報告 介護サービス事業所等実態調査概要 報告	
7 月上旬			
中旬			
下旬	圏域連絡会議 第 9 期中間報告 第 10 期計画に係る施設 整備計画	基本指針案提示 成立した法律を踏まえた 推計ツール（確定版）の提供	
8 月上旬			
中旬			運営協議会資料作成
下旬		運営協議会②	運営協議会立会い
9 月上旬			運営協議会会議録提出
中旬			
下旬			
10 月上旬	市町村サービス見込み量ヒアリング	サービス見込み量・保険料の仮設定	
中旬			運営協議会資料（骨子案提出）
下旬		運営協議会③ 骨子案の提示 推計値の報告・計画概要決定 （保険料、施設整備計画）	運営協議会立会い
11 月上旬			運営協議会会議録提出
中旬			パブリックコメント支援
下旬		広報 1 月号パブリックコメント掲載依頼	
12 月上旬			運営協議会資料（素案提出）
中旬		運営協議会④ 素案の提示・諮問	運営協議会立会い
下旬			運営協議会会議録提出
1 月上旬		パブリックコメント広報掲載	
中旬		パブリックコメントの実施 介護保険条例改正 3 月議会提案	
下旬			パブリックコメント意見集約 運営協議会資料（最終案作成）
2 月上旬		運営協議会⑤ 最終案審議の提示 運営協議会からの答申	運営協議会立会い
中旬			運営協議会会議録提出
下旬			計画書印刷
3 月上旬			
中旬			
下旬	千葉県高齢者保健福祉計画公表	計画策定支援業務契約完了	成果品の納入（計画書等）

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(前回比較版)

令和8年1月5日～令和8年2月2日を調査期間とし、市内65歳以上の方で、要介護認定を受けていない方のうち、3,000人を抽出しアンケートを行いました。

3年前の調査結果と比較するため、結果値を(前回値→今回値)で表示しています。

1 実施概要

調査対象者	今回 R7	前回 R4	増減
調査対象者数	18,281 人	18,119 人	-
回答数(回収率)	2,223 人(74.1%)	2,199 人(73.3%)	0.8%増

地区別回収率(全体)	東部地区(第1)	中央地区(第2)	西部地区(第3)
計 74.1%	71.4%	74.1%	75.8%

2 本人の状況

介護・介助の必要性 (P6～P12)

- ・普段の生活で介護・介助は必要ない(80.5%→81.3%)
- ・普段の生活で「何らかの介護・介助が必要だが現在は受けていない」、「現在、何らかの介護・介助を受けている(16.4%→14.6%)

からだを動かすことについて (P13～P18)

- ・過去1年間に転んだ経験がある(32.1%→33.1%)
- ・転倒に対する不安がある(59.4%→59.6%)
- ・外出を控えている(34.9%→19.4%)

食えることについて (P19～P25)

- ・全体の低栄養リスク(1.3%→1.1%)P78
 - ↳東部地区(1.7%→1.1%)、中央地区(0.7%→1.5%)、西部地区(1.6%→0.7%)、
- ・孤食傾向にある(21.3%→21.3%)

毎日の生活について (P26～P35)

- ・IADL の低下(16.1%→13.2%)P84
- ・趣味あり(63.0%→64.7%)
- ・生きがいあり(53.4%→51.4%)

IADL: 買い物、食事の準備、服薬管理、金銭管理などより複雑で労作が求められる活動を行う能力

健康について (P56~P63)

- ・健康状態がよくない(18.6%→18.6%)
- ・現在治療中、または後遺症のある病気 (高血圧 47.8%→49.9%)
- ・フレイルの認知度(20.7%→27.8%)

介護が必要になった場合の暮らし方 (P64~P67)

- ・介護が必要となった場合、自宅を希望する人(64.5%→60.4%)
「自宅で家族などを中心に介護してもらいたい」(16.2%→14.8%)
「自宅で介護サービスや福祉サービスを活用したい」(48.3%→45.6%)
- ・老人ホームや病院に入所したい人(23.3%→20.4%)
- ・住宅型有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅に入居したい(6.3%) 追加項目

3 本人を取り巻く環境の状況

地域での活動について (P36~P42)

- ・参加していない割合が全体的に減少(無回答が増加しており、適切な比較ができない)
「趣味関係のグループ」(59.6%→43.0%)、「学習・教養サークル」(69.9%→48.4%)、
「町内会・自治会」(60.0%→40.3%)
- ・「収入のある仕事」をする割合(週1回以上 19.0%→16.9%)

就労について (P43~P44) 追加項目

- ・引退した(51.8%)
- ・就労している人(35.4%)
「常勤(フルタイム)」(7.5%)、「非常勤(パート・アルバイト等)」(11.3%)、「自営業」(16.6%)

たすけあいについて (P45~P51)

- ・家族や知人以外の相談相手がいない(46.3%→46.7%)
- ・友人・知人と会う頻度があまりない (34.9%→34.9%)
- ・よく会う友人・知人がいない(11.4%→12.1%)

日常生活での困りごとについて (P52~P55)

- ・手助けしたくない(4.0%→4.1%)
- ・生活必需品の買い物
「徒歩圏内にある小売店で買っている(コンビニ含む)」(39.9%→43.6%)

認知症にかかる相談窓口の把握について (P66~P69)

- ・地域包括支援センターの認知度(43.7%→47.4%)
- ・認知症の理解(わからない 9.2%→8.6%)
- ・認知症相談窓口の認知度(17.2%→17.8%)

認知症に対するイメージについて (P70~P72) 追加項目

- ・家族や医療・介護などのサポートを利用すれば自立した生活を送ることができる(65.6%)
- ・身の回りのことができなくなるため、介護施設に入ることが必要となる (67.1%)
- ・周りの人に迷惑をかけてしまうことがあるので、地域で生活することが難しい(61.9%)

成年後見制度について (P73~P74) 追加項目

- ・成年後見制度の認知度
「制度を知らない」(64.8%)
- ・成年後見制度の相談先
「わからない」(43.4%)

4 調査結果から見える地域特性 (P91)

東 部 地 区 (第1日常生活圏域)	・普段の生活で介護・介助が必要である人の割合が最も高い。 ・趣味や生きがいを持っている人の割合が最も低い。 ・介護予防のための通いの場へ参加する人の割合が最も高いが、町内会・自治会へ参加する人の割合は最も低い。 ・要介護認定者の割合が最も多く1人暮らし高齢者が多い。今後、介護・介助のニーズが一層高まることが想定されるが、経済的に苦しい割合も高く、経済面から必要とするサービスを利用できない可能性も考えられる。
中 央 地 区 (第2日常生活圏域)	・家族構成では、3圏域のうち夫婦2人暮らしの割合が最も高い。 ・スポーツ関係のグループやクラブに参加している人の割合と収入のある仕事をしている人の割合が最も高いものの、各種グループに参加していないと答えた人の割合も最も高い。 ・転倒リスク及び低栄養リスクのある人の割合が最も高い。 ・フレイルの認知度が高く、銚子プラチナ体操や情報冊子「ちょーぴーのやさしさ便利帳」を知っている人の割合も高いことから、健康などに対する感度が高いと見込まれる。
西 部 地 区 (第3日常生活圏域)	・後期高齢者及び要支援認定者の割合が最も低い。 ・BMI では、男性の肥満は最も低かったが、女性の肥満は最も高い。 ・趣味関係のグループに参加している人の割合が低い。 ・自身が介護が必要となった場合に自宅で家族などを中心とした介護を希望する人の割合が高く、最期を迎える場所として自宅を希望する人の割合が最も高い。その一方で、最期をどのように迎えたいか家族と話しあっている人の割合が最も低い。

介護サービス事業所等実態調査結果

(A 票)介護サービス事業所等実態調査

1 調査の概要

(1)調査の目的

銚子市内の介護サービス事業所等の運営状況や介護人材の実態を把握し、職員の確保・定着、育成と業務改善に必要な取組等を検討するための基礎資料とすることを目的に、市内の介護サービス施設・事業所等を対象としたアンケート調査を実施しました。

(2)調査の対象

銚子市内の介護サービス事業所 108事業所

(3)調査の期間

令和7年12月15日(月)～令和8年1月9日(金)

(4)調査の方法

メールにて配布、回答

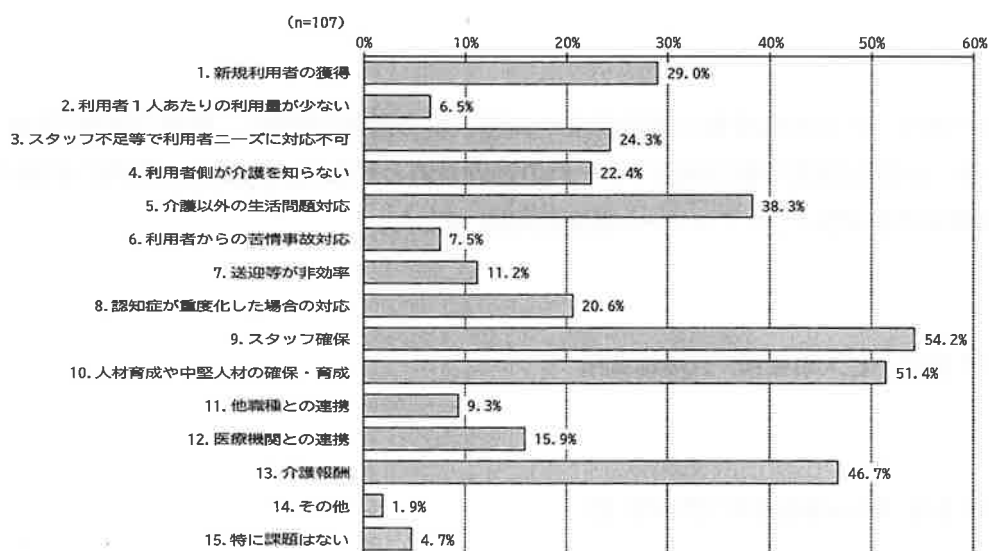
(5)回収率

回収数(回収率) 107事業所(99.1%)

2 調査結果

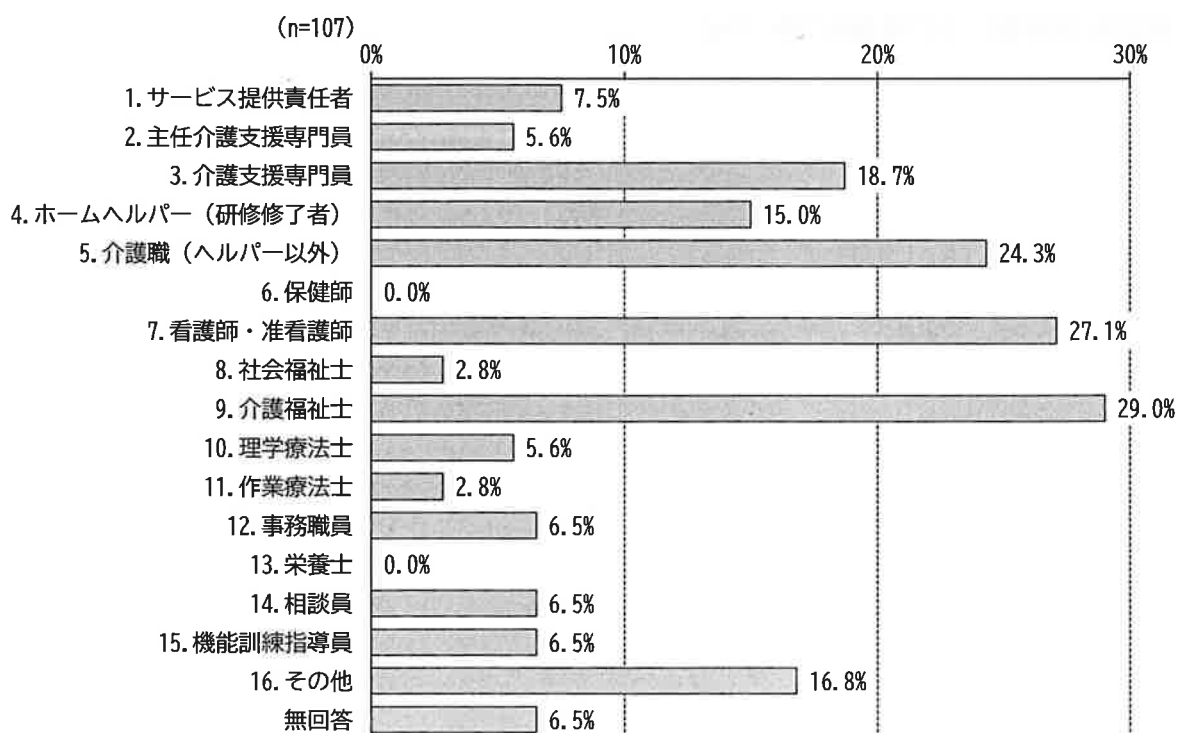
(1) 事業運営上の課題(P102)

- ・運営上の課題として、「スタッフ確保」が最も多く、次いで「人材育成や中堅人材の確保・育成」があり、「介護報酬」の低さをあげる事業所が多くなっています。
- ・単なる人材不足だけでなく、人材育成や地域の生活課題への負担も増加しています。



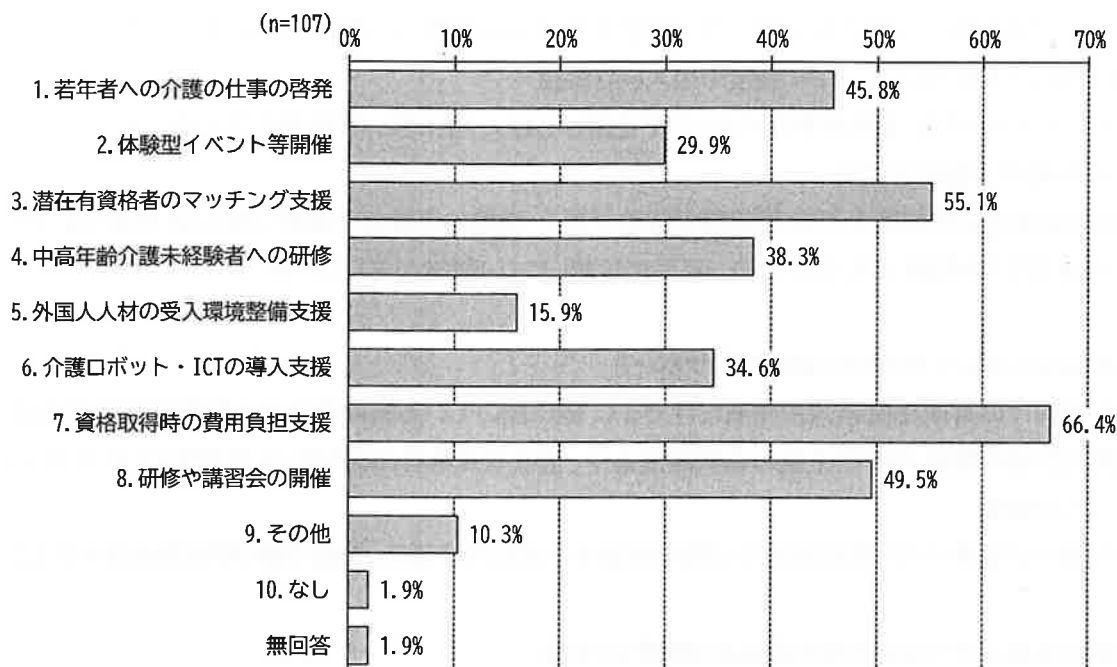
(2) 不足している職種(P103)

- ・専門職不足があり、特に介護福祉士や看護師不足はサービス維持に直結する課題となっています。



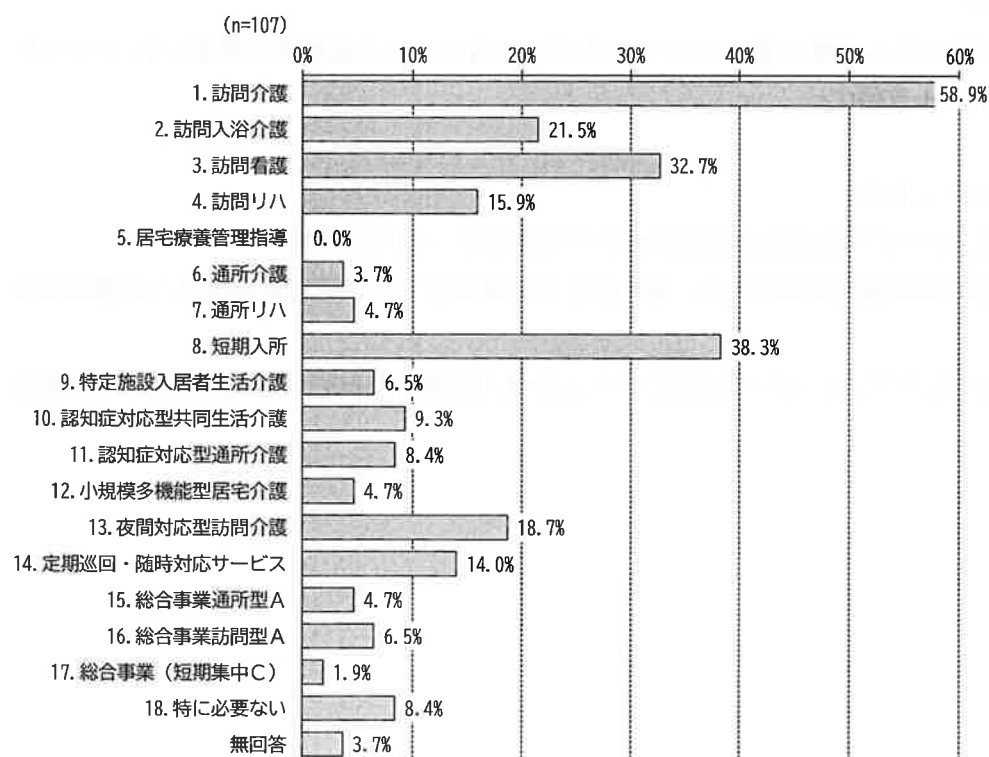
(3) 行政に求める支援(P111)

・人材確保・育成への支援ニーズが高く、資格取得や研修支援等、行政との連携強化が求められています。



(4) 地域で不足するサービスについて(P112～P113)

・在宅生活継続を支える訪問系サービス不足の認識が高く、訪問介護人材不足がサービス不足につながっている可能性があります。



(5) 介護サービス事業所等からの主な意見

ア 採用や人材定着に関する課題

- ・民間人材紹介会社への依存:ハローワーク経由での採用が難しく、莫大なコストをかけて民間紹介会社を頼らざるを得ないことが、経営上の大きな負担
- ・ケアマネジャー不足:業務過多のイメージが定着しており、特に若い世代のケアマネジャーの確保と育成が極めて困難な状況
- ・職員の高齢化と中間層の不在:若年層の定着が悪く、現場の高齢化が進行。特に 50 代以上と 20 代の間を繋ぐ「中間層」がないため、若手が定着しにくい環境が生じている

イ 人材確保に関して市町村に期待するサポート

- ・現任者向けの育成支援:新規取得者だけでなく、既に働いている職員向けの人材育成研修の充実
- ・就職説明会の開催:市町村主催の合同面接会や、潜在有資格者の掘り起こしを目的としたサポートイベントの開催
- ・若年層への啓発:中学・高校段階での職場体験や出前授業を通じ、地域で働く将来像を提示すること
- ・物資の支給:マスクなどの衛生用品の継続的な支給
- ・ターゲットの多様化:若年層だけでなく、子育て世代やシニア層を含めた幅広い層への介護職の魅力発信

ウ 介護保険制度に対する要望・ご意見

- ・基本報酬の底上げ:処遇改善や安定した事業運営を継続するため、加算に頼りすぎない基本報酬自体の引き上げ
- ・ICT・タブレット等の導入支援:介護ロボットや ICT 導入に合わせた人員基準の見直しや、ケアマネジャーへのタブレット支給など

エ 市に対する要望・ご意見

- ・市独自(横出し)サービスの拡充:介護保険外の市独自のサービスの充実
- ・業務負担の軽減:事務負担軽減のため、電子記録や加算管理ソフト、送迎車両更新への補助制度の創設
- ・情報共有と ICT 化:ケアプランデータ連携システムの導入促進や、法改正前の事前説明会の実施

(B 票)在宅生活改善調査

1 調査の概要

(1)調査の目的

自宅等にお住まいの方で「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている方」もしくは「家族等介護者の就労継続が難しくなっている利用者」の実態を把握し、地域に不足する介護サービス等を検討するための基礎資料とすることを目的に、市内の介護サービス施設・事業所等を対象としたアンケート調査を実施しました。

(2)調査の対象

銚子市内の居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所、地域包括支援センター

33事業所

(3)調査の期間

令和7年12月15日(月)～令和8年1月9日(金)

(4)調査の方法

メールにて配布、回答

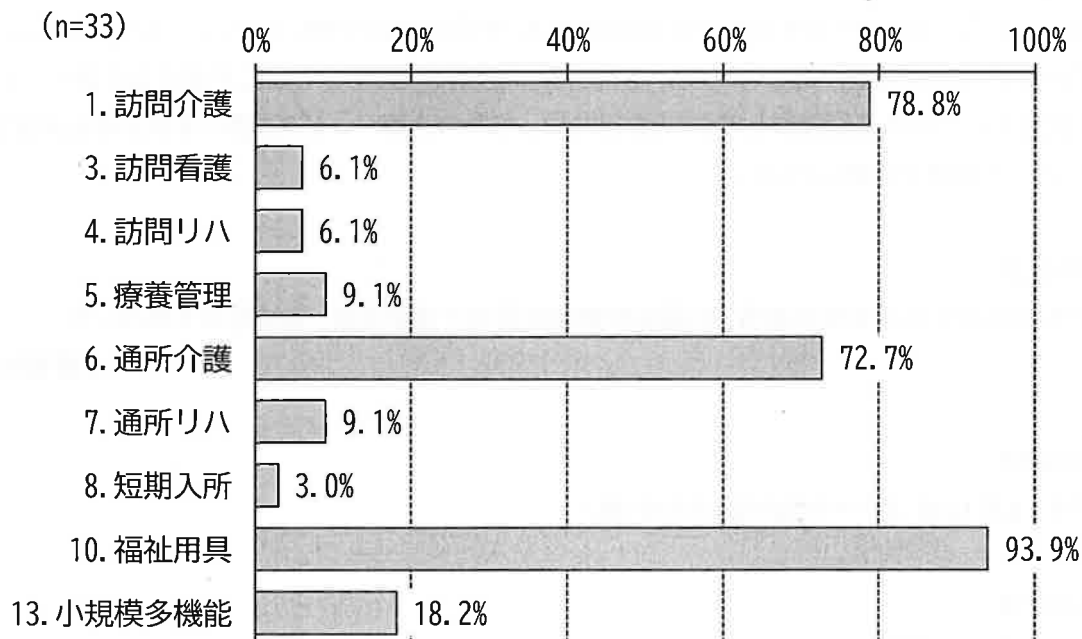
(5)回収率

回収数(回収率) 33事業所(100%)

2 調査結果

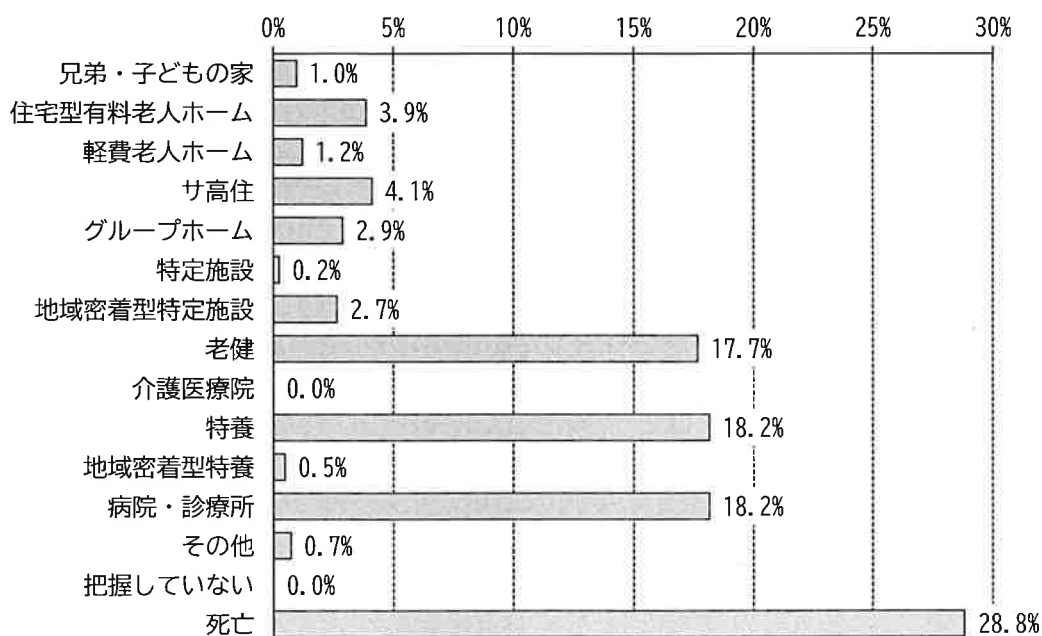
(1) 利用者の状況(P122~P124)

- ・要介護要支援認定者(4,269人)のうち、1,878人が在宅で介護サービスを利用しています。
- ・訪問介護サービスと通所介護サービスを組み合わせて在宅生活を継続している人が多く見受けられます。



(2) 自宅等から居場所を変更した方の状況(P125~P128)

- ・過去1年間に自宅等から居場所を変更したのは281人で、要介護度別にみると要介護3が30.6%で最も多く、次いで要介護4が26.0%で介護度が3、4となると特養(特別養護老人ホーム)や老健(老人保健施設)へ入所する方が多くなるように見受けられます。

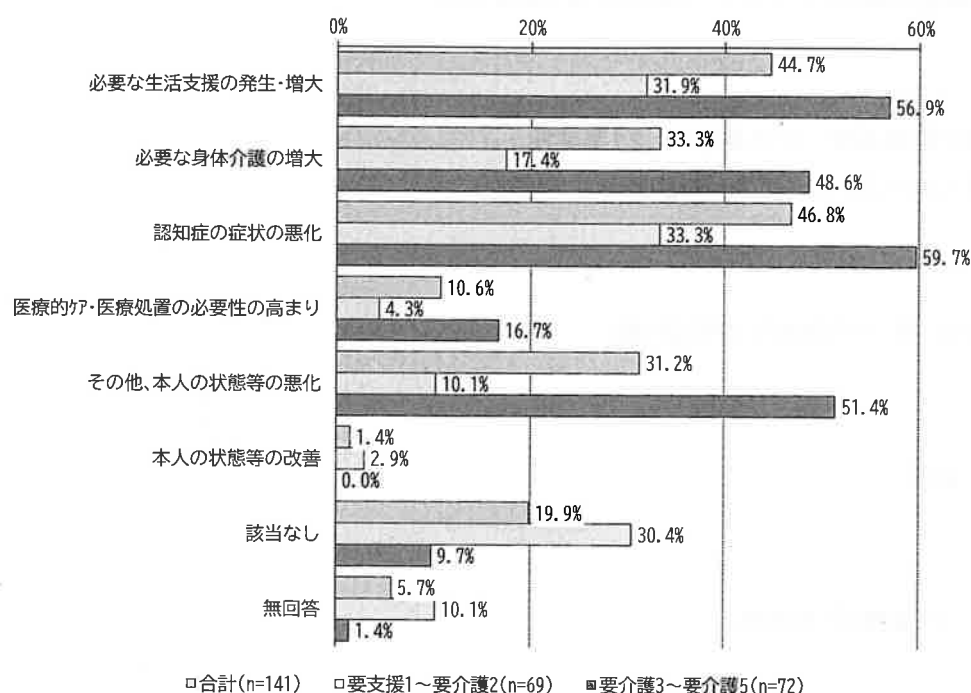


(3) 現在のサービス利用では生活の維持が難しくなっている方の状況(P129～P134)

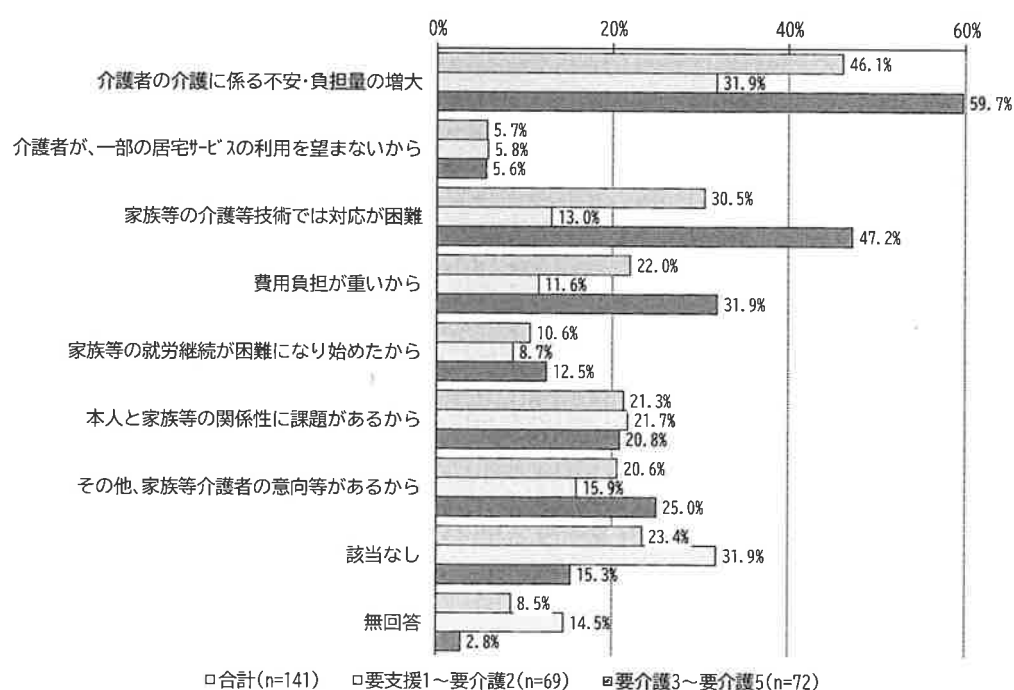
・現在のサービス利用で自宅等での生活の維持が難しくなっている方は、銚子市全体で111人でとなり、独居世帯に多く見受けられます。

・自宅等での生活が難しい理由は、「認知症の悪化」や「必要な生活支援の発生・増大」が多く、「介護者の介護に係る不安・負担量の増大」が大きな理由となっています。

生活の維持が難しくなっている理由（本人の状態に属する理由、複数回答）



生活の維持が難しくなっている理由（家族等介護者の意向・負担等に属する理由、複数回答）



(C 票) 居所変更実態調査

1 調査の概要

(1) 調査の目的

過去1年間の新規入所・退所の流れや、退去の理由を把握することで、住み慣れた住まい等で暮らし続けるために必要な機能等を検討するための基礎資料とすることを目的に、市内の介護サービス施設・事業所等を対象としたアンケート調査を実施しました。

(2) 調査の対象

銚子市内の施設・居住系サービス事業所 21事業所
(住宅型有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅含む)

(3) 調査の期間

令和7年12月15日(月)～令和8年1月9日(金)

(4) 調査の方法

メールにて配布、回答

(5) 回収率

回収数(回収率) 21事業所(100%)

2 調査結果

(1)現在の入所・入居者の状況(P137～P138)

・特養の待機者が791人と多く、次いで地域密着型特養が82名となっています。

サービス種別	定員数等	入居者数	待機者数	特養申込者数
1. 住宅型有料老人ホーム	8	3	0	0
2. 軽費老人ホーム	90	91	6	3
3. サービス付き高齢者向け住宅	59	52	5	2
4. グループホーム	72	71	17	6
5. 特定施設	30	25	3	0
6. 地域密着型特定施設	29	28	2	0
7. 介護老人保健施設	280	269	7	9
9. 特別養護老人ホーム	310	286	791	
10. 地域密着型特別養護老人ホーム	20	20	82	
合計	898	845	—	—

※「待機者」は複数の施設へ申し込みをしている者も多いため、延べ人数となる。

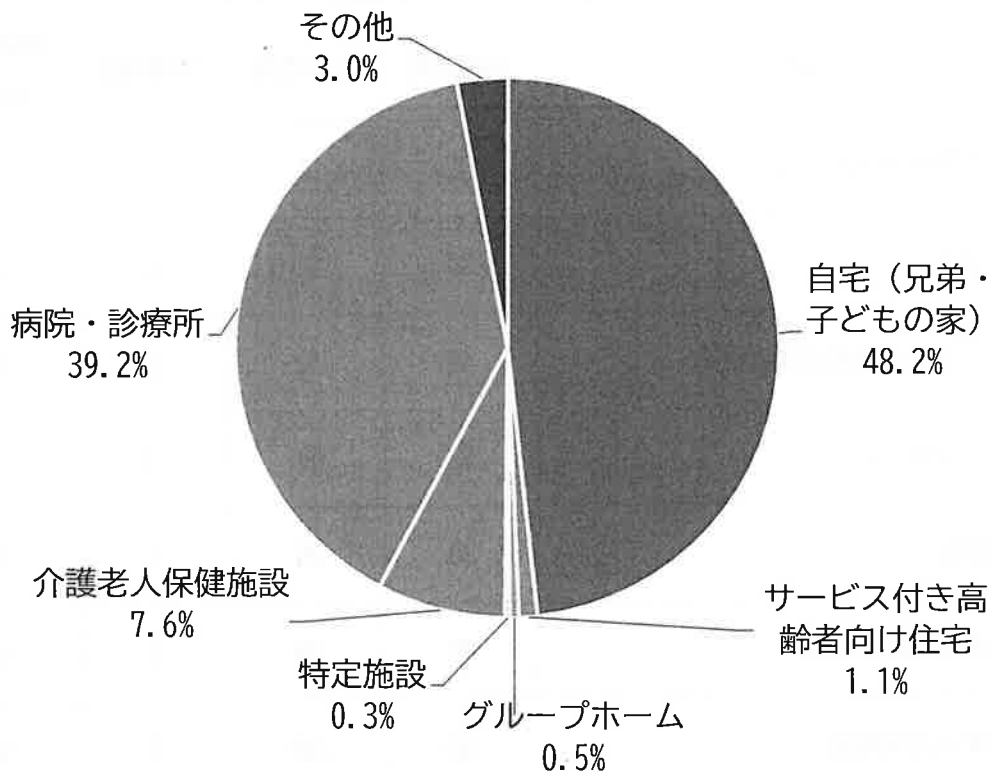
(2)医療処置が必要な利用者の受け入れ状況(P139)

・施設等で医療処置が必要となる場合があり、医療処置を受け入れている入所・入居者の合計は67人で、「褥瘡の処置」、「ストーマの処置」、「酸素療法」と多岐に渡っています

1) 点滴の管理	6	9) 経管栄養	6
2) 中心静脈栄養	2	10) モニター測定	1
3) 透析	5	11) 褥瘡の処置	16
4) ストーマの処置	12	12) カテーテル	9
5) 酸素療法	12	13) 喀痰吸引	6
6) レスピレーター	0	14) インスリン注射	6
7) 気管切開の処置	0	15) 上記に対応可能な医療処置はない	4
8) 疼痛の看護	5		

(3) 居所変更の状況(P140～P141)

・特養や老健に入所する前の居所は、自宅からが48.2%と多く、次いで病院39.2%となっています。



(4) 退去者について(P140～P144)

・入居・入所者が、退去する理由は、「医療的ケアの必要性」、次いで「認知症状の悪化」となっています。点滴の継続投与や常時、医療措置が必要になった場合、認知症状の悪化や、常時の見守り・介護が必要になり、現在の施設(特にケアハウス等)での自立生活が困難になった方が見受けられます。

退去理由	回答数	内訳（再掲）		
		特養	老健	その他
1) 必要な生活支援が発生・増大したから	2			2
2) 必要な身体介護が発生・増大したから	3			2
3) 認知症の症状が悪化したから	5			4
4) 医療的ケア・医療処置の必要性が高まったから	18	3	3	12
5) 「1」～「4」以外の状態像が悪化したから	4	2	1	1
6) 入所・入居者の状態等が改善したから	1		1	
7) 入所・入居者が、必要な居宅サービスの利用を望まなかったから	0			
8) 費用負担が重くなったから	4			4
9) 本人が希望したから	3		1	2
10) その他	2		1	1